

2017年4月25日

パルシステム東京生活協同組合様

ペシャワール会

長年に亘り当会中村哲医師のアフガニスタンにおける活動にご理解と多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

2016年度の現地プロジェクトの進捗状況を以下の通りご報告いたします。

お寄せいただきました平和カンパ1,067,800円は、以下の事業に有効に使わせていただきましたことを、併せてご報告申し上げますとともに深く感謝申し上げます。

おかげさまで緑の大地計画は2020年で一応の区切りがつきますが、現地の状況に鑑み、アフガニスタン全土の農業復興に寄与すべく、その基盤作りに取り組み始めております。これは少なくとも20年を要する長期に亘る事業になると決意を新たにしております。

## 《2016年度プロジェクト報告》

### 1. 医療活動

2016年度は前年度に引き続き、PMS（ピース・ジャパン・メディカル・サービス）のアフガニスタン東部山岳無医地区のダラエヌール診療所では24時間の診療体制を維持し、一般診療に加え母子保健向上のため女性職員による妊産婦の保健指導にも力を入れております。ワクチン接種や結核治療も継続し、地域住民からの信頼を集めています。  
(年間診療数 約45,000人)

### 2. 灌溉事業

2016年度は以下のとおり灌漑設備の建設を手がけました。

#### 〈ミラーン堰完工とマルワリードⅡ取水設備の建設〉

2014年10月に着工したミラーン堰は2016年9月にようやく完工しました。これで流域1100haが潤され、同流域のタプー村の灌漑も可能となり、合計1600haを潤しています。10月にはその上流対岸地帯(カチャレイ、コーティ、タラーン、ベラ村)にマルワリードⅡ取水堰の建設を着工しました。今年1月下旬には取水堰の仮工事が完了し、水門を開放し主幹水路約1キロの送水試験を行ないました。現在は護岸工事、主幹水路及びカチャラ、コーティ村への分水路の建設に力を入れています。この事業によって約850haの安定灌漑と両岸からの取水堰の維持管理が可能になります。

隣国パキスタンからの送還難民が激増する中、帰農人口を増やすべく灌漑による農地復旧と新開墾地を増やし、灌漑網整備を急いでいます。また、灌漑設備の建設現場においては急がない作業では重機での作業を減らし、人海戦術を採用、雇用機会を増やすよう努めます。

### 3. 農業事業と湿害対策

2009年夏、マルワリード用水路が最終地のガンベリ沙漠に到達し、PMSは沙漠の開拓を始めました。試験農場として約230haを確保し、現在も開拓中です。開拓と同時に湿害対策として排水路の整備も続行しています。2014年までに約80キロの排水路網が築かれましたが、根本的な湿害対策として、さらにガンベリに主幹排水路が必要となりました。流域各村の利害調整後、2016年3月に着工されました。2016年度中に予定1.8キロのうち1.7キロが整備され、完工すればマルワリード用水路全体の集大成となり耕作地の更なる拡大に結び付くことになります。

ガンベリ試験農場では、果樹や穀類を中心に様々な生産が試みられ、畜産も拡大し、モデル農場となるよう開墾が更に進んでいます。また昨年10月には植樹後5年目のオレンジが結果し始め、出荷を期待しています。(2016年度植樹数 約89万本)

### 4. 広域拡大を目指して

今なお進行するアフガニスタンでの干ばつへの対策として、洪水や渴水でも安定した水量がとれるPMS取水方式の広域拡大を目指しています。その中でも最も重要な人材育成について、2016年度は、訓練所建設に着工し、遠方からの訓練生受け入れのための宿泊施設の建築も同時に進められています。

来年度も引き続き現状(大干ばつによる渴水と洪水の繰り返し)に即した取水システムの建設、流域住民による維持・管理を促進し、農業を核とした地域復興の一モデルとして提示、同時にアフガニスタン各地での展開に向け基礎を固めていきたいと考えています。

また、増え続ける送還難民に対しては、彼らの自立定着と帰農を促すため、農村復興のカギとなる灌漑施設の建設に現地PMSはさらに尽力してまいります。

以上